Netsujo / ARC・導入前評価

AIエージェントを、検収できる仕事へ。

導入前評価・責任分担キット

AIエージェントを業務へ接続する前に、
役割・許可・レビュー・証拠・停止と復旧を一件の試験に落とすための検収準備資料。

技術責任者 | 導入・発注担当 | 権限境界 | Go / No-Go

使う人が、判断を進められる資料へ。

2026年10月版 / 顧客向け実務資料
出典・仮定・空欄は区別して記載しています。

© Netsujo | 2026.10.19

01 / 要件整理

誰が、何を、どこまで実行するか。

目的を達成するための具体的な操作を、主体・対象・権限・影響の上限へ分解します。

観点	記入するもの	確認する人
目的・対象	対象業務と完了条件、変更対象、除外範囲	業務責任者
実行役割	実行可能な行為、外部接続、禁止操作	システム管理者
承認役割	人の判断を要求する条件、承認記録	承認権限者
検証役割	成果を独立して確認する観点と証拠	検収責任者
停止・復旧	失効、誤操作、結果不明、再開条件	運用責任者

ARCの適用位置

Agent Role Contracts（ARC）はエージェントの役割、権限、タスク範囲、レビュー分離、引継ぎを実行前にオフラインで検査するOSSです。運用環境固有のIAM設定、実行時の監査、外部APIの副作用の確認は別途検証します。

02 / 評価項目

設計段階で検証するチェック項目。

宣言できる境界と、実環境でしか確かめられない境界を分けて扱います。

評価項目	宣言・設計で確認	実環境で追加確認
実行者の役割	role ID・タスク・許可の対応	本番の主体・資格情報の対応
最小権限	想定する読み書き範囲	実際のIAM/API許可
レビュー分離	作成者と承認者の役割	独立レビュー経路が機能するか
タスク境界	対象・期限・出力・禁止操作	入出力と副作用の実測
引継ぎ・証拠	受け渡す契約・記録の形	原本性・保管・失効・照合

判定ルール（提案）

PASS

条件、検証対象、証拠が一致し、承認済み。

HOLD

重要な未確認が残り、実行判断を保留。

STOP

権限逸脱や重大な不一致を発見し、実行を停止。

判定名称はこの資料の導入判断例です。ARCのCLIが同一のステータスを保証するという説明ではありません。

03 / 受入証拠

受入は対象と版が一致する証拠で。

検証したソース、実行環境、本番利用を段階別に照合します。

段階	証拠の例	合格条件
設計	role contract、権限表、タスク定義	目的と責任分担の合意
実装	対象SHA、設定版、試験結果	予想した正常系と異常系が一致
独立検証	別のレビュー主体、発見・修正記録	未解決の重大指摘を解消
導入	本番の主体・権限・監査記録	承認された範囲で実行できる
実利用	実業務の成果と利用者確認	顧客・担当部門が成果を受入

必ず試す異常系

期限切れの許可、対象版変更、意図しない宛先、レビュー主体の重複、外部APIの結果不明、途中停止からの再開を試します。環境の副作用を生む試験は隔離環境と合意したデータで行います。

04 / 停止と復旧

停止と再開も、業務仕様に含める。

業務運用を検討する段階で、失敗時に誰が何を確認するかを決めます。

状態	運用の判断
権限・証拠が失効	対象と許可を再照合し、必要な承認へ戻す
対象の版が変更	変更差分と関連検証を見直す
結果が不明	外部システムの結果を照合してから再試行を判断
操作が範囲外	停止して監査・影響調査・権限調整へ進む
一部が完了	完了済み成果と残る作業を分けて再開する

> **引継ぎの最低項目**
>
> 現在の対象版、実行済みの操作、確認できた副作用、有効な承認、残る作業、現在のブロッカー、復旧担当を一緒に残します。

05 / 発注と検収

発注・検収に使う評価票。

小さな1業務を選び、宣言・検証・実環境受入を実施します。

対象業務・目的： 業務名・重要度

AIが扱う範囲： 入力・出力・操作・例外

権限・承認： 操作単位と承認者

品質・独立QC： 受入条件・証拠・独立した確認者

運用移行： 監視・停止・復旧・担当

判定： PASS / HOLD / STOP、残る条件

AIエージェントの導入評価・技術支援
責任・権限・検証条件を具体化したうえで、業務への適用範囲をご相談いただけます。
https://netsujo.jp/consult

参考：ARC公開リポジトリ https://github.com/suirindo/agent-role-contracts ／ Netsujo資料一覧 https://netsujo.jp/downloads （2026-10-19確認）。資料は導入・発注判断のための評価例です。最新の実装機能と検証範囲はARC READMEで確認してください。